

蕨市長 頼高英雄 様

新型コロナウイルスの感染防止対策、
暮らしと経営を守るとりくみについての要望書

2020年4月20日

日本共産党蕨市議会議員団

鈴木 智 山脇紀子
宮下奈美 武下 涼

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、全力で対策に当たられていることに心からの敬意と感謝を申し上げます。

連日報道されている通り、新型コロナウイルスの感染拡大は世界中で猛威を振るい、国内でも、先日、確認された感染者が累計で1万人を超えたことが報じられました。蕨市内でも、市民や蕨市立病院での感染事例が伝えられ、市民の不安は大きく広がっています。加えて、休校、外出自粛、休業要請の長期化による暮らしや地域経済への影響は日々深刻になっています。一方、この間の国の対策は、緊急事態宣言は発令されたものの、検査や医療体制、休業補償、暮らし・営業支援など具体的な対策では様々な面で不十分さが指摘されている状況です。

日本共産党市議会議員団には、この間、市民から不安な思いや検査・医療をめぐる体験、職場・地域の現状とともに、感染防止の徹底、相談・検査・医療体制の拡充、暮らしや経営への支援策の実施など、多くの切実な要望が届けられてきました。この度、緊急に必要と思われる事項を中心に要望書としてまとめ提出させていただきます。市民と心通う「あったか市政」の役割をいっそう発揮していただき、先月6日に提出した要望書と合わせ、今後の施策にいかしていただきますようお願いいたします。

記

1、市民、および市職員の感染防止に全力をあげてください。医療機関、学校、保育園、留守家庭児童指導室、介護施設などへの援助を強化し、マスクや消毒が不足する施設への支援は早急に行ってください。

2、市立病院における感染防止を徹底するとともに、地域医療の中核を担う病院として一刻も早い患者の受け入れ再開をめざしてください。

3、国および埼玉県に、相談・検査・医療の体制強化を要請してください。

4、「発熱が続いているのに検査を受けさせてもらえない」「検査待ちの自宅待機は不安」などの声が届いています。国・県や医師会などと連携し、市民が利用できる発熱外来の体制を整備してください。

5、「検査、医療、支援など、どこに相談したらよいかわからない」という声が寄せられています。蕨市として相談窓口の設置を検討するなど、市民の様々な相談や不安に対し総合的に対応できるよう努めてください。

6、市内事業者などの現状や、融資・支援の相談・実施状況などの把握を強化してください。また、川口市などでは市内事業者などへの独自支援策が打ち出されていますが、蕨市としても、市内事業者などを支援する独自施策を実施してください。国や県に対しては、労働者、フリーランス、中小企業者、個人事業者などへの支援策の拡充を求めてください。

7、市民や事業者などへの支援施策の窓口となっている蕨市社会福祉協議会、蕨商工会議所との連携を強化し、それぞれが十分な受付・相談体制をとるために必要な支援を行ってください。

以上